

- 1… DREAM●2018|2022プロジェクトがスタート
大宮アルディージャジュニアが2連覇
～第3回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会～
- 2… 第88回高校選手権大会県予選・本大会を振り返る
- 4… 審判委員会より・技術委員会より
- 5… 大会記録
- 8… インフォメーション・編集後記



●発行/発行人：会長・相川宗一 編集人：高橋 明 ●発行所/(財)埼玉県サッカー協会 住所：〒330-0074さいたま市浦和区北浦和 1-21-18雁ヶ音ビル204号室
Tel048-834-2002・Fax048-834-2004 http://www.saitamasfa.com/ (年間購読料 1500円)

DREAM●2018|2022 プロジェクトがスタート



10年後、日本だからこそ叫ばれる。
かつてないスケールのワールドカップへ。

開催国だけでなく、世界中にいるすべての人が
興奮と熱狂を、同時に、肌で、感じられるワールドカップ。
それは、世界最大のスポーツイベントのあるべき未来の姿であり、
8年前にワールドカップ共催を成功させた
日本だからこそ掲げる壮大な夢です。

この夢を叶えるために、私たち日本は、
2018年または2022年の
FIFAワールドカップの開催国に立候補しました。
日本は、サッカーと地球社会を
進化させる可能性に満ち溢れています。

日本だからこそ実現できる、新しい未来へ。
私たちは挑戦します。
世界がもっと、わかりあうために。

2018/2022年FIFAワールドカップ日本招致に
みなさんご支援をお願いいたします。

DREAM●2018|2022
www.dream2018-2022.jp/

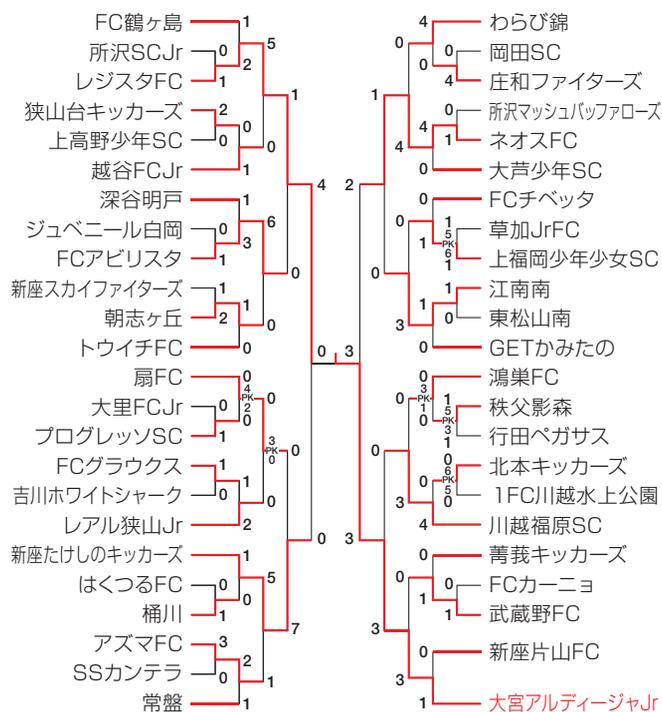


埼玉県は2018/2022日本招致の
開催地自治体です。

大宮アルディージャジュニアが2連覇 ～第3回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会～

12月12日から47ブロックの優勝チームが県内各会場で決勝トーナメントに挑んだ。23日に埼玉スタジアム2002で決勝戦を迎え、大宮アルディージャジュニアが2対0でレジスタFCを破り、2年連続の優勝を果たした。

23日には、第4グラウンドでミニサッカー大会、午前中の準決勝と決勝戦の間にはU-10のキッズフェスティバルやJAさいたまによる野菜の直売会や豚汁が振る舞われるなど、楽しい一日を過ごした。



FIFAワールドカップ™ 招致に向けた活動が始まっている。一般財団法人2018/2022年FIFAワールドカップ™日本招致委員会が立ち上がり、招致委員やアンバサダー、特別広報大使としては「アトム」が任命されるなど、機運が高まっている。

招致委員会は、この招致活動を「DREAM 2018/2022 プロジェクト」と名付け、ワールドカップ開催を通じてサッカーの可能性を上げ、日本の夢を、世界の夢を、実現していこうとしている。

現在、招致委員会のホームページ (<http://www.dream2018-2022.jp/>) 上では、DREAM 2018/2022「10年後の夢」キャンペーンを展開中だ。多くの皆さんの夢をぜひ、招致委員会まで送ってください。

また埼玉スタジアムで“世界”と出会い、感動を共有できれば、もっと埼玉の、日本のサッカーは良くなるはずだ。

埼玉県での活動は、今後様々な形で紹介していく。



決勝戦 大宮アルディージャジュニア vs レジスタ FC

第88回高校選手権大会県予選・本大会を振り返る

出席者 高体連技術部長：福田直史(鴻巣高校)
高体連技術部：桑原一郎(川越高校)・高田優二(熊谷高校)・大森健司(越谷南高校)・武田直樹(栄北高校)
司 会：荒川裕治(広報委員)

—まずは、県大会、本大会含めて、印象に残っていることをお一人ずつお願いします。まずは大森先生、いかがでしょうか。

大森：先日、全国のTSG(テクニカルスタディグループ)のビデオの編集が終わりました。まず、全国の話ですが、いくつかテーマをピックアップして分析した中で言えば、個人的には守備の緩さでしょうか。Jクラブのユースと比較すると基礎技術の高低はありますが、とにかく緩い。個が緩いので、チームも緩いのです。

さらに言えば、戦術的なものではなく、「ボールを奪いたい」という気持ちが欠けていました。どうも、ボールとゴールの間であれば、「守備をしているんだ」と勘違いしているようなのです。それも3~4m近づけばいいと思っているようですが、それではフリーにしているのと一緒です。そこで勝負あった、という場面が多く見られました。西武台も立正大淞南との試合で、悪いシーンをピックアップしました。

その中で、守備をしていたのが山梨学院大学付属です。攻守にわたるハードワークが光りました。それも1stディフェンスの決定が早く、一気にボール保持者に対して包囲網を作っていました。ブロックを形成する前に複数で奪うという守備は突出していました。そしてそこから守備から攻撃への切り替えが早く、失点が少なく、得点も挙げていましたね。



大森健司氏

—そういう面から県予選をどう見ていましたか。

大森：だからハードワークしていた市立(浦和)が、決勝まできたのだと思います。それを西武台の攻撃が上回りました。しかし、全国大会では佐瀬、三浦以外の選手が潰されて、彼ら2人にパスが出せませんでした。やはり、県内でも守備をしっかりした戦いをしなければと感じましたね。

高田：私も緩いと感じました。特にセンターバックの身体の大きい選手たちに力強さがありませんでした。確かにヘディングは強いのですが、足下の弱さが目立ちました。まあDFだけでなく、中盤もトップも、ハードワークという面では今ひとつでしたね。



県大会決勝 西武台

—それは2種だけの問題でしょうか？

高田：3種、4種で守備を教わっていないのかもしれませんが。なんとなくやってきて、きちんと教わった上で戦っていないような気がします。

3種のクラブでも、ボールは回すことはしているでしょうが、攻撃ばかりで守備はどうなのでしょう。ただ我々はどうかと聞かれれば、やはりどうやって攻めるかが先になりますね。でも、守備をしないと勝ち上がってはいけませんね。

武田：それは前線からですね。ボールを失った後の切り替えの意識が低かったですね。自分が奪わなくても味方が取ってくれるだろう、どうせ相手がミスしてくれるだろう、そんな他人任せのプレー、守備が目につきました。

またせっかくトップの一人がチェンシングしても、他の選手が連動していなかったり。後からのコーチングもないんですね。確かに、高田さんのおっしゃるとおり、(守備を)教わっていないのか、知らないのか、と思いました。

その中でも西武台は攻守の切り替えが早かったように思います。ただ、ボールを奪われたら追いかけていましたが、チームとしての連動性は欠けていたのではないのでしょうか。

高田：前橋育英も選手権では守備の甘さがありましたね。「次がある」と思えるリーグ戦の影響が出たのでしょうか。

桑原：相手ボールを奪いに行くということを練習から徹底させているかどうかですね。ゲームに入ってから「行け行け」と言っている指導者が多いような気がします。練習でやっていないことをいきなり試合で言っても無理ですね。

トップクラスにおいては、山学のような守備のモデルはありますが、その下のクラスのモデルがボケているような気がします。どうなのがいいのか？ どこまでやればいいのか？ 「こんなものでいいか」では、県外では通用しないでしょう。もっと、県全体で個を止めることを意識しないと、西武台にタレントがいて県内で勝っても、県外に出たら厳しくなるでしょう。

福田：守備については、何十年も言い続けています。TSGの分析は攻撃ばかりのような気がします。随分前から全国的に「高校は守備がよくないですね」と言われ続けているのです。もっと守備面をピックアップするべきでしょう。それは埼玉も同じだと思います。

実際、ボールを奪われた選手が追っつかないようなチームが上位に入っているのです。やはり県のベスト8に入るようなチームは、全国に出て活躍してくれないと困ります。ですから、指導者が勉強不足なんです。

3種のクラブの試合を観て思ったのは、守備になったとき、形としてラインは作るし、3つのゾーンに合わせて選手のスライドもできています。しかし、1対1の駆け引きが少なく、周りのコーチングも少ない—ここは2種でも少ないと思います。

思うに、個人の技術を求めている指導者が少ないのではないのでしょうか。やはり1対1です。あとは中澤(佑二・日本代表)も相手シュートに背中を向けて、自分の身体に当たってゴールが決まった試合がありました。ああいうプレーはほとんどないことでは。単純なことが伝わっていないのではないのでしょうか。指導者の勉強会が必要です。来年度は定期的な講習会が必要だと思っています。



武田直樹氏



福田直史技術部長

—2種の結果は2種だけの問題ではないということですね。

高田：西武台とかはどうなのでしょう。彼らのレベルでどれだけ指導されてきたかが見えていません。高体連の地区予選あたりで見ると上手いですし、いいものを持っているなと思える選手は多い。でも、楽に勝てるせいか、必死さは伝わってきません。

もっと下、4種リーグをたまに見るのですが、熊谷の多目的広場などいいグラウンドでやっていますよね。でも、本当に相手を「止めよう」とい気持ちがあるのかなというプレーが多いんですよ。なんとなくやられちゃうから悔しがりもしない。なんだか冷めている。そういう気持ちの植え付けも必要なのかもしれないね。得点には喜んでいますが（笑）。

大森：悪いことが落とし込まれているような気がします。ベンチにいる指導者が「中を切れ」「外を切れ」。それは選手の判断じゃないですか。指導者が判断しすぎですよ。選手のプレーに自分自身の判断が伴っていないのです。

トレセンで「どうしてこうしたの？」と選手に聞くと「いつもこうだから」「これが普通だと思います」なんです（苦笑）。答えは、その場その場で出てくるものなのに、なぜか答えを持っているんです（笑）。

—判断ができないということでしょうか。

大森：オンのときはあるんです。判断できるんです。でもオフだと、一人の判断で他の選手が連動すればいいのに、それができない。ベンチから「行くな」ですからね。ボールを奪えたのであれば、その事実は誉めないといけないのですが、取れなかったら指示を無視したことになるんですよ。

もうちょっと失敗しても場を設けないといけないと思います。

福田：トレセンリーグで各県が集まると「埼玉は上手い子がたくさんいるね」と言われます。しかし、ただそれだけ。やはり守備が足りないのでしょうか。

—選手に対しては、上手いだけではなく、様々な要素が求められているということでしょう。

ここまで課題ばかりでしたが、何か発見はありましたでしょうか。

桑原：昔ほど、判断無く蹴ることは無くなったと思います。GKを使ってビルドアップするチームは増えています。でも、取られたりすると「蹴っちゃえ」と指示してしまう指導者もいて、プレッシャーの中で続けることが大事だと思います。そこで蹴ると、進歩がないですからね。

武田：特にないですね……。

福田：結局は、全国に出て戦える強いチームが無くなったということだと思います。そのためには、よく言うのですが、選手を集められるチームが出てくれればと思うのです。

でも、今回の守備の弱さは感じることでですから、全国的に働きかけをしていかなければならないと思います。特に上位チーム、ベスト16に入るようにチームに伝えたい。もっと守備力を強化してほしいと。

同時に2種、3種の合同会議や、3種のクラブとのコミュニケーションも円滑にしなければなりません。特に県や地区トレセンに入っていないと、ナショナルトレセンにピックアップできないようなルールは是正しないといけないと思います。

—指導者が集まる「場作り」は急務ですね。あと、言い残したことはございませんか？

高田：もっと先を見据えないといけませんね。まだ運動能力の高い子供は野球に行っています。彼らをサッカーで抱えられないのでしょうか。そのためにも日本代表に勝ってもらって、サッカーをやりたいという子供が増えてくれればと思います。

大森：指導者の中で「埼玉からいい選手を出そうよ」と同じベクトルが向いていないような気がします。「埼玉から」ではなく「俺のところから」になっています。それはオープンマインドではないでしょう。

選手の成長過程の中で、一人の指導者が抱えてしまっただけではよくないでしょう。やはり2、3人は必要です。今、コミュニケーションが取れていないのは、目標が共有できていないからです。そのベクトル合わせも必要だと思います。

福田：J1とJ2に埼玉出身の選手がどれだけいるか。08年は63人、09年は76人、そして10年は78人と増えています。もっと多くの選手がプロの舞台に立ち、日本代表になってくれればと思っています。



高田優二氏

—今後の積極的な取り組みに期待しています。ぜひ、高校総体、選手権では課題への取り組みの成果を見せていただきたいものです。ありがとうございました。

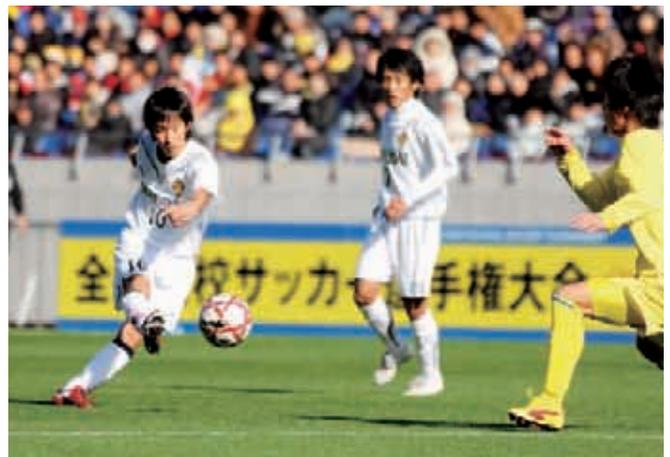
第88回全国高校サッカー選手権大会

12月30日～1月11日 国立競技場他

1回戦 西武台高校 2-1 立正大淞南高校

2回戦 西武台高校 1-2 作陽高校

※山梨学院大附が優勝



1回戦 西武台 vs 立正大淞南



2回戦 西武台 vs 作陽

審判委員会より

●手の不正使用について

(財)埼玉県サッカー協会 審判委員長 岡田 泉

新年度を迎え、いよいよ2010シーズンが始まります。すでにプロリーグは開幕され、数節消化されています。多くの皆様がお気付きだとは思いますが、手の不正使用について厳しく判定されています。競技規則が変わったわけではありません。では、どんな意図があるのでしょうか。

各種別における国際大会をみると、日本チームのファウルの多くは、手の不正使用によるものです。ご存知のようにサッカーは、手や腕を使わず相手ゴールを目指すものです。手の不正使用により、技術がおろそかになる恐れもあり、日本サッカーの発展を考えると修正しなければならない課題となります。そのことを競技者や審判員だけでなく、サッカーに関わるすべての方々にご理解して頂きたいと思います。

審判員の皆様も試合をご覧になるときに、日本サッカーの発展という視野でトップレフェリーの判定を見て頂き、自分がゲームをコントロールする際の判定の参考にして下さい。ただし、あまりにも神経質になりすぎてアドバンテージの考えを忘れないようにして下さい。そして繰り返されることのあるならば、懲戒罰も考えなければなりません。埼玉県サッカー協会審判委員会でも研修会等を通して、考え方やゲームコントロールに関して発信していく予定です。是非、研修会に足をお運びください。

〈Bleef note〉

- 1月9日、東松山リコーグラウンドにて、東城 穰氏（JFA プロフェッショナルレフリー）によるプラティカルトレーニング実施しました。
- 2月7、20、27日に埼玉スタジアム第2グラウンドほかで指導部による実技研修会を開催しました。
- 2月28日、吉見町において「フットサル県リーグ担当審判員研修会」（11名参加）が行われました。
- 3月14日、川越陸上競技場にて「サッカー2級昇格審査一次審査」（6名参加）、「サッカー2級審判員体力テスト」（61名参加）、「第3回サッカー3級インストラクター研修会」（65名参加）が実施されました。
- 3月20日には、さいたま市民会館うらわにおいて、シーズン前研修として岡田委員長を講師に、「手の不正使用について」についての講義を行いました。



2級審判員体力テスト



3級インストラクター研修会



3級インストラクター研修会

●2010年度審判研修会予定表

日時	区分	内容	会場
4月17日(土) 18:00～	トレセン	体力、プラティカル、他	上尾南高
5月8日(土) 14:00～	トレセン	体力、プラティカル、他	リコー
5月30日(日) 10:00～		新体力テスト(インターバル走)	戸田市
6月26日(土) (宿泊) 13:00～	上級審判	講演、各研修会報告、ルールテスト、他	リコー
6月27日(日) 9:00～	上級審判	プラティカル、プレゼンテーション	リコー
7月10日(土) 14:00～	トレセン	体力、プラティカル、他	リコー
8月20日(金) 10:00～	実技研修	選手権1次1回戦	各会場等
9月11日(土) 14:00～	トレセン	体力、プラティカル、他	リコー
10月9日(土) (宿泊) 14:00～	強化審判	実技研修、講義、ルールテスト他	リコー
10月10日(日) 9:00～	強化審判	プラティカル、プレゼンテーション	リコー
10月31日(日) 10:00～	実技研修	選手権予選ラウンド16	各会場等
11月6日(土) 10:00～	実技研修	選手権予選準々決勝	熊谷競技
11月7日(日) 10:00～	実技研修	選手権予選準々決勝	熊谷競技
12月11日(土) 14:00～	トレセン	講演会、各研修会報告、ルールテスト、他	さいたま市民会館うらわ
1月15日(土) 12:00～	トレセン	体力、プラティカル、他	リコー
2月5日(土) 10:00～	実技研修	県新人戦1回戦	各会場等
2月6日(日) 10:00～	実技研修	県新人戦準々決勝	各会場等
2月26日(土) 10:00～		新体力テスト(インターバル走)	戸田市
3月26日(土) 14:00～	トレセン	総括、ルールテスト、プレゼンテーション、他	さいたま市民会館うらわ

技術委員会より

●SFA技術委員会主催フットボールカンファレンス開催

3月22日、東松山・市民活動センターにおいて、第1回の「フットボールカンファレンス」が開催された。技術委員会より各カテゴリでの活動報告のあと、清水秀彦氏（浦和市高出身。HSスポーツクラブ代表）と金井豊氏（児玉高出身。ゴールドルーツスポーツクラブ代表）を招き、小林技術委員長とパネルディスカッションを行った。

「指導者一人ひとりがこだわりをもっていかなければ」（清水氏）、「まずはコーディネーション」（金井氏）などの言葉に、参加者も大きく頷いていた。さらに、審判委員会より木村滋インストラクターの解説で、手を使ったファールについての説明があった。今後の指導に役立てていただきたい。



2009年インターンシップ総括～2010年度に向けて

総括の会議の冒頭、横山専務理事から「こんなに指導に行ってくるとは思わなかった」という話が出ました。22名もの学生が、県内6校（久喜市立久喜中学校、戸田市立喜沢中学校ほか）で指導を行ってくれました。受け入れていただいた顧問の先生には喜ばれ、大学生の指導に、子供たちは活き活きとサッカーをしていました。また大学生が来るということで、一度はサッカーから離れた子供がまた部活に戻ってきたという話も聞き、予想以上の成果が出てきていると思っています。

ただ同時に、今の中学校の指導環境、置かれている立場も見えてきました。冬場は17時に完全下校、ある市では土日の部活は禁止……成長期の子供たちは、どこでサッカーをすればいいのでしょうか。こういうことについても、教育委員会と話し合っていかなければならないと感じました。

さて、10年度に向けて動き出しています。5月からの指導に向けて、3月末に2期生となる養成コースを行い、平成国際大2名、文教大2名、目白大1名、獨協大1名の6名が受講してくれています。いい指導者になってくれることを期待しています。（小豆澤）



大会記録 ● 県内大会

2種・高校

平成21年度高校サッカー埼玉県新人大会
2月7日～27日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

西武台	4-0	6	浦和東	1-0	1
国際学院	2-0	0	越谷南	0-0	1
伊奈学園	2-1	1	大宮南	0-0	0
正智深谷	1-0	1	昌平	0-0	0
埼玉栄	3-1	7	飯能南	0-0	0
本庄第一	4-0	1	大宮東	0-0	0
武蔵越生	0-0	3	成徳深谷	0-1	1
浦和南	2-2	2	市立浦和	0-1	2

※市立浦和が14年ぶりの優勝の優勝

●平成21年度新人戦県大会総括

埼玉県高体連技術委員 小茂田 佳郁(県立本庄高校)

平成21年度新人戦県大会は、支部予選を勝ち上がった8チームに選手権ベスト8(中央リーグ)を加えた16チームのトーナメントで行われた。決勝戦は、市立浦和对西武台という、昨季の全国高校選手権埼玉大会の決勝戦と同じ顔合わせとなった。結果は選手権とは異なり、市立浦和が全国高校選手権に出場した西武台に1-0で競り勝ち、14年ぶり5度目の栄冠を手にした。

3位は武蔵越生と浦和東。武蔵越生は、全員攻撃、全員守備を目指し、粘り強い守備からのカウンター攻撃で準決勝まで勝ち上がってきた。キャプテンのDF三羽が守備をまとめ、攻撃は前線で右から渡辺のドリブル、MF池田のパスからチャンスを作っていた。

残念ながら準決勝では、前半西武台のテンポの良い攻撃に、終始引き気味になり、ボールへのプレッシャーがかけられず失点してしまった。中盤から相手の攻撃を規制して、ボールを奪う積極的な守備に磨きをかけてほしいものだ。

浦和東は、MF境を軸に、ボールへのプレッシャーが厳しく、前でボールを奪って速いテンポでDFの裏を狙う攻撃を仕掛ける。しかし準決勝では、前線からのプレスを仕掛けるものの、徐々に市立浦和の適切な角度と距離でのサポートの早さが上回り、プレスの網をくぐられてしまった。まだまだ、チーム全体としての守備が整備されていない印象が残った。

決勝に進んだ両チームとも、準決勝の戦いでは、それぞれの良さが特徴的に見られたと思う。

市立浦和は、相手の前線からのプレスに対してもボール周辺の選手が落ち着いて、適切なポジションを取り、ボール保持者に選択肢を与えていた。このサポートの距離と角度と動き出しの早さが相手を上回り、主導権を握っていた。しかし、決勝では個の能力がより高い相手のプレッシャーに対して、縦への仕掛けが単調になり、ファーストコントロールのミスが目立ち、思うような攻撃が仕掛けることができなかった。ボールがない選手のサポート、動き出し、判断は早いですが、そのテンポのプレーに必要なスキルが不足していると感じられた。プレッシャーの中での正確、適切なコントロール、スキルの質を高めてもらいたい。



決勝 市立浦和 - 西武台

2位の西武台は、相対的に高い個人をベースに昨年よりもテンポよくボールを動かし、サイドを崩していた。準決勝では、特に右サイドをMF中村、松本、SB澤本の3人が連動して突破してチャンスを作っていた。ただ決勝では、センターフォワード清水、佐々木が孤立する場面が多く、中盤でのサポートが不足していた。前線での基点ができていただけに、周囲のサポートを増やし、中盤での選択肢を増やしてほしいものだ。それを可能にするためにも活動量をあげ、動きの連動性を高めて、全国レベルのプレッシャーの中でもテンポよくボールを動かす「西武台のサッカー」を魅せてほしいと願う。

今後、さらなる活躍が期待される選手として、市立浦和のMF森崇と西武台のFW清水慎太郎をあげたい。MF森は、ボランチながら、チャンスと見るや積極的に前線のスペースへ飛び出して行く。決勝のPKは、彼の飛び出しから始まる決定的なチャンスから得たものであった。また、守備でも中盤の危険なスペースをすばやく埋め、相手の攻撃の芽を摘んでいた。今後、プレッシャーの中でも主導権をとって、ボールを動かせるだけのポジション能力を身につけ、埼玉ナンバーワンMFとして、全国の舞台上で活躍してほしい。

一方西武台のFW清水は、献身的に前線からボールを追うようになり、攻撃でもポストプレーで前線の基点となっていた。前を向いて自ら突破する力も持っている。しかし決勝では、周りの選手をうまく使えず、孤立する場面が多く見られた。相手のハードマークの中でもボールを失わず、地域、状況に応じた適切な判断力を身につけて、ポストプレーのレベルアップを目指してほしい。またセンターフォワードとして、ゴール前でのフィニッシュの精度を高め、ワンランク上の決定力を身につけ、「怖いセンターフォワード」になってほしい。

各チームとも新チームになって、まだ日が浅く、戦い方も手探り状態であろう。そのためか、ボール周辺でのプレスは厳しいものの、最終ラインまでの守備組織としては、確立されていない。したがって、ひとつのプレスをかいくぐられたときに守備のもろさが目立った。そんな中で守備の基本であるチャレンジ&カバーを粘り強く繰り返し、最も安定した守備が組織されていたのが市立浦和だった。

一方、攻撃は前述したように決勝に進んだ2チームは、自らテンポよくボールを動かそうとしていた。今後その精度を高め、一層のレベルアップが期待される。

4種

第4回埼玉県第4種新人戦中央大会

2月14日、20日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

サイタマジュニアフットボールクラブ	3	上福岡少年少女サッカークラブ	0
行田西サッカースポーツ少年団	0	新座片山FC少年団	2
FCアビリスタ	3	江南南サッカー少年団	1
FC CIVETTA花園	1	蓮田キッカーズ	0
戸塚フットボールクラブJr	0	越谷サンシンSS少年団	1
レジスタFC	0	浦和尾間木SS少年団	0
北本キッカーズSS少年団	0	鶴ヶ島サザンキッカーズ	0
飯能ブルーダーズジュニア	0	大宮アルディージャJr	3

※大宮アルディージャジュニアが2年連続、2度目の優勝



決勝 大宮アルディージャジュニア vs FCアビリスタ

女子

第2回埼玉県サッカー協会会長杯女子サッカー大会

12月20日、23日 武蔵丘短期大学グラウンド他

武蔵丘短期大学	6	武蔵丘短期大学	6
(県リーグ1部優勝チーム)	3-2	浦和レッズJrユースL	0
尚美学園大学	2		
(県選手権大会優勝チーム)	1-0		

※武蔵丘短期大学が優勝



決勝 武蔵丘短期大学 vs 浦和レッズJrユースレディース

PUMA CUP 2010 第15回全日本フットサル選手権関東大会

1月16日、31日 山梨県昭和町体育館

- 1回戦 Iwatsuki Futsal Club/tzk 7-4 コロナフットボールクラブ
Artista埼玉 4-1 funf spieler YAMANASHI
2回戦 Iwatsuki Futsal Club/tzk 1-6 FUGA TOKYO
Artista埼玉 4-7 ZOTT WASEDA FUTSAL CLUB

※優勝はmalva fc

トリムカップ第2回全国女子選抜フットサル大会関東大会

12月26日 郷土の森府中市総合体育館

●予選リーグA

Aブロック	東京都	埼玉県	栃木県	勝点	得失点差	順位
東京都	*	○4-2	○1-0	6	+3	1
埼玉県	●2-4	*	○4-0	3	+2	2
栃木県	●0-1	●0-4	*	0	-5	3

※優勝した東京都が全国大会に出場

全日本女子ユース(U-15)フットサル大会

1月10日、11日 北九州市立総合体育館

●1次ラウンド・グループB

グループB	名古屋	埼玉	山口下関	勝点	得失点差	順位
名古屋FCレディース	*	3○2	1△1	4	+1	1
埼玉県U-15女子選抜チーム	2×3	*	6○4	3	+1	2
下関ファンタジスタガール	1△1	4×6	*	1	-2	3

※優勝はクラブフィールズ・リンダ(北海道)

大会記録●トレセン・選抜

関東トレセンリーグU-16

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	神奈川県トレセン	5	1	1	16	+11
2	埼玉県トレセン	4	2	1	14	+11
3	茨城県トレセン	3	1	3	10	-2
4	栃木県トレセン	3	0	4	9	-3
5	東京都トレセン	3	0	4	9	-5
6	千葉県トレセン	3	0	4	9	-7
7	山梨県トレセン	2	1	4	7	-1
8	群馬県トレセン	2	1	4	7	-4

※埼玉県は2位で終了

関東U-15トレセンリーグ

- 第1節 埼玉県 3-1 栃木県
第2節 埼玉県 5-1 東京都
第3節 埼玉県 2-6 群馬県
順位決定戦 埼玉県 2-0 千葉県

関東U-14トレセン交流戦

- 第1節 埼玉県 0-7 神奈川県
第2節 埼玉県 9-2 川崎フロンターレ
第3節 埼玉県 2-2 ジェフ市原・千葉
第4節 埼玉県 1-5 栃木県
第5節 埼玉県 3-2 大宮アルディージャ
第6節 埼玉県 3-1 群馬県
第7節 埼玉県 6-2 山梨
第8節 埼玉県 2-5 千葉県
第9節 埼玉県 4-2 茨城県

関東U-13トレセン交流戦

- 第1節 埼玉県 2-5 神奈川県
第2節 埼玉県 3-5 川崎フロンターレ
第3節 埼玉県 1-5 ジェフ市原・千葉
第4節 埼玉県 0-3 栃木県
第5節 埼玉県 0-5 大宮アルディージャ
第6節 埼玉県 2-6 茨城
第7節 埼玉県 2-1 千葉県

- 第8節 埼玉県 1-5 U-12A
第9節 埼玉県 6-1 山梨県

関東U-12トレセン交流大会

- 第1節 埼玉A 6-7 山梨A
第2節 埼玉A 3-7 東京A
第3節 埼玉A 0-7 神奈川A
第4節 埼玉A 8-7 栃木A
第5節 埼玉A 10-4 群馬A
第6節 埼玉A 3-6 茨城A
第7節 埼玉A 3-3 千葉A

- 第1節 埼玉B 4-2 山梨B
第2節 埼玉B 4-7 東京B
第3節 埼玉B 4-1 神奈川B
第4節 埼玉B 6-1 栃木B
第5節 埼玉B 6-2 群馬B
第6節 埼玉B 8-3 千葉B
第7節 埼玉B 3-2 茨城B

第6回関東女子U-15トレセンリーグ

●全日程終了

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	東京都トレセン	7	0	1	21	+33
2	神奈川県トレセン	6	1	1	19	+19
3	千葉県トレセン	6	1	1	19	+12
4	埼玉県トレセン	4	1	3	13	+15
5	茨城県トレセン	4	0	4	12	+8
6	長野県トレセン	2	2	4	8	-14
7	栃木県トレセン	2	1	5	7	-19
8	山梨県トレセン	2	0	6	6	-8
9	群馬県トレセン	0	0	8	0	-46

第7回関東女子サッカートレセンリーグ(U-12)

●全日程終了

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	埼玉県トレセン	6	1	0	19	+27
2	神奈川県トレセン	5	1	1	16	+23
3	千葉県トレセン	2	4	1	10	+5
4	東京都トレセン	3	1	3	10	+2
5	茨城県トレセン	3	1	3	10	±0
6	栃木県トレセン	2	1	4	7	-9
7	群馬県トレセン	2	1	4	7	-13
8	山梨県トレセン	0	0	7	0	-35

※埼玉県が初優勝

第16回少女サッカー都連選抜チーム関東・東北交流大会

1月17日 リコー東松山グラウンド

Aブロック	埼玉	栃木	秋田	勝点	得失点差	順位
埼玉県	*	○5-1	○6-0	6	+10	1
栃木県選抜「空」	●1-5	*	○1-0	3	-3	2
秋田県選抜	●0-6	●0-1	*	0	-7	3

決勝 埼玉県 4-0 神奈川県

第17回神奈川県少女選抜招待サッカー大会

2月6日、7日 神奈川県体育センター球技場

Bグループ	埼玉	三重	茨城	勝点	得失点差	順位
埼玉県	*	○13-0	○5-1	6	+16	1
三重県	●1-13	*	○3-2	3	-11	2
茨城県	●1-5	●2-3	*	0	-7	3

●決勝トーナメント(1~4位決定戦)

準決勝 埼玉県 4-0 東京都

決勝 埼玉県 3-1 千葉県

アルディージャ、圧勝 ～さいたまシティカップ～

2月13日に恒例の「さいたまシティカップ」が開催された。今回、初めて大宮アルディージャが参加し、韓国の強豪、水原サムスンブルーウィングスを迎え討った。

結果は、キャンプでの成果を生かして、5対0とアルディージャの一方的な勝利で終わった。



大宮アルディージャ vs 水原サムスンブルーウィングス

インフォメーション

●タウンミーティング in 南部

2月27日に、戸田市文化会館において、タウンミーティングを開催しました。戸田、蕨、川口協会の皆さんにお集まりいただき、ミッションの進捗状況をお知らせしました。質疑応答の際、登録に関する質問をいただきました。関係各所にて、早急に対処いたしますので、よろしくお願いします。

●埼玉スタジアム2002、「ベストピッチ賞」受賞

埼玉スタジアム2002が、2009年のJリーグアオズ・ベストピッチ賞を受賞しました。3月14日、浦和レッズホーム開幕戦キックオフの前に、表彰セレモニーが行われました。ベストピッチ賞は、年間を通して優れたピッチを提供したスタジアムに与えられる賞で、2005年に続き、2回目の受賞。おめでとうございます。



写真提供 / 埼玉スタジアム2002事業推進本部

●SMCサテライト講座終了

昨年に続き、SMC(スポーツ・マネジャーズ・カレッジ) サテライト講座が開催されました。22名の方に受講していただきました。今回はSFA事務局からも3名が受講しました。ご自身の活動に活かしていただければと思っています。

編集後記

●バンクーバー五輪が終わった。金メダルがないのは残念だが、4個のメダルはまずまずか。韓国勢の活躍が目立った。強さの要因は国をあげての強化策である。企業スポーツ中心の日本は、厳しい経済不況のなか選手養成が難しい。政府の支援に期待したい。(高橋)
●ワールドカップも近づきました。埼玉出身の選手のアピールに期待するとともに、大宮の塚本選手の今後に応援を送りたいと思います。(坂庭)
●ウォーキング通勤も早2年。体重・体脂肪ともに標準をキープ(△)でも……これからの季節、帰宅後のビールの誘惑が心配です(笑)。

(こいち)

●寒い寒い! と思っていたら、暖かい日も多くなってきました。前日との気温差がとても大きい時があるので、まだ重ね着と暖房は必要ですが……。春は目の前なので、こんな気候もあと少しですね!(かのう)
●幸手さくらマラソンに出場してきましたが、16kmで体が……。今年度は初のフルマラソンに挑戦してみようと思います! もちろん、サッカーも頑張ります。(小豆澤)
●年度末を迎え、慌ただしさを感じながら過ごしています。サッカーもこれからが本番ですが、釣りに行こうか、それとも江の島に行っ

てヨットでクルージングにしようか迷っています。一つのことにとらさず、気の向くままに沢山の経験ができればと思っています。(森山)
●先日、審判を1日2試合やってきました! 2試合続けてPKでした! しかも雨の中! 自分が主審をやるとなぜかPKが多いです……自分にはPKの神様がつかっているのでしょうか?(笑)(佐々木)
●以前このコーナーで1度書きましたが、今一度書かせていただきます。「試合こそが1番いい『監督』だ」デットマール・クラマー。4月24日から第4回4種リーグが始まります。1年が早いです。(栗島)



10年度の開催に向けての課題ですが、各種別連盟、専門委員会で活動している方に学んでいただきたいと思っています。そこからさらにSFAと繋がっていただければと思っています。また、サッカーだけでなく、他種目の方とつながる場になればとも考えているところです。

08年度に受講されて、課題未提出のままの方、講義の未受講の方がまだまだいらっしゃいます。ぜひ、修了証を受け取っていただけるよう、お願いします。(小豆澤)

●所沢市サッカー協会創立10周年記念式典

3月20日、160人もの関係者が出席し、所沢市協会創立10周年記念式典がセレス所沢で盛大に開催された。記念式典は、田畑会長挨拶に続き、当麻よし子所沢市長をはじめ多くのご来賓の祝辞のあと、にぎやかに懇談会となった。式の半ばには、地元郷土芸能の祭囃子も飛び出すなど、郷土色豊かな趣向をこらした式典であった。式典に先がけ、SFA横山副会長の記念講演と功労者表彰も合わせて開催された。



●壮行試合は、埼玉スタジアムで日韓戦!

5月24日(月) 19時20分～ 日本代表 vs 韓国代表

3月27日から一般発売が始まっています。南アフリカへ向かう日本代表にエールを送りましょう。

●「アルディージャ後援会 塚本泰史選手支援基金」発足

残念なことに、塚本泰史選手(浦和東高校出身)が骨肉腫と診断され、治療に専念することとなりました。そこで、アルディージャ後援会が発起人となり、これから骨肉腫との闘病生活をおくる塚本選手本人及びご家族を支援することを目的に基金が設立されましたのでお知らせします。

■郵便振替口座のご案内

◆口座番号: 00120-0-358434

◆口座名称(漢字): アルディージャ後援会 塚本 泰史支援基金

◆口座名称(カナ): アルディージャコウエンカイ ツカモトタイシエンキキムもしくは

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)店 当座預金 0358434

武蔵野銀行(0133) 大宮支店(034) 普通預金 1044685

◆名義: アルディージャ後援会 塚本 泰史支援基金